2019 年 10 月 22 日

留学報告書

人文学部心理人間学科准教授
伊東　留美

この度、留学（2018 年 4 月 1 日～2019 年 8 月 20 日）を終了し、以下に申請者の留学期間における研究活動内容を報告させていただきます。

1. 留学期間と研究受入機関について

留学期間：　2018 年 4 月 1 日～2019 年 8 月 20 日

留学受入機関：

上智大学グリーフケア研究所　（2018 年 4 月 1 日～2018 年 9 月 13 日）

Division of Health and Professional Studies, School of Behavioral Sciences and Education, The Pennsylvania State(Penn State) University (Pennsylvania, USA)　（2018 年 9 月 14 日～2019 年 8 月 20 日）

2. 研究テーマと目的について

研究テーマ：「芸術療法におけるスピリチュアリティの考察－瞑想的活動を取り入れた芸術活動における表現について－」

研究目的：瞑想的活動が芸術活動の表現とプロセスにどのような影響を及ぼすかについて Art-based research（アートベース・リサーチ、以下 ABR）という研究方法を用いて探求し、博士論文としてまとめること。

3. 研究活動と成果報告

（1）研究計画

2017 年に留学願を申請した当初の研究計画には大きく 3 つの計画を提示した。①アメリカ合衆国レスリー大学の Expressive Therapies（表現療法）博士コースにおいて遠隔地授業によるコースワークを終わらせ、その後は博士論文執筆に向けて取り組むこと、②2018 年 4 月から 9 月中旬まで、上智大学のグリーフケア研究所にて客員講師として、研究所所長である島薗教授の指導のもと死生観と宗教性についての研究を進めること、③2018 年 9 月中旬から 2019 年 3 月末まで、アメリカ合衆国ペンシルベニア州にあるペンシルベニア州立大学ハリスバーグ校にて高等教育での瞑想的活動の実践研究とイメージの活用の意義、Transformative Learning（変容的学習）理論について理解を深

め、創造的芸術活動（表現）と精神性の変容についての関連資料を収集すること。

その後、2018 年 10 月の留学延長願いを申請し、延長する目的を 2 つ挙げた。①博士論文の研究調査のデータ収集と分析を終わらせること、②マインドフルネスと ABR の関連文献資料を収集すること。以上の研究計画に基づいて、申請者の留学期間の研究活動は進められた。

（2）研究活動

研究活動については、「留学計画書」（2017 年 9 月提出）および「留学期間延長願（研究計画書）」（2018 年 11 月提出）にて計画した内容をおおむね実行することができた。

2018 年 4 月 1 日より 9 月 13 日まで、上智大学グリーフケア研究所にて内地留学をし、研究所主催の公開講座および実践宗教学研究の博士課程（前期）の授業のいくつかを聴講させていただいた。期間中、指導教員の島薗進先生をはじめ、諸先生方からもご指導をいただきながら、文献資料収集を行った。特に、本研究に関係するテーマでもある仏教思想と丹田に関係する文献（和文・英文）を収集することができた。この期間中の文献収集と研究成果の一部をまとめ、瞑想的活動における丹田の意義とその宗教的背景を含めた内容の論文（英文）を執筆した。“The Creative Therapies in the Helping Relationships: Psychotherapy and Spiritual Care” (University of Ottawa Press)に投稿した。本論文の査読審査は終えたが、当初の担当者が私的事情で担当を辞退され、現在は担当者不在の状況で出版の目処が立っていないという報告をもらっている。また、ABR の理論を用いた美術教育の活動について、第 67 回日本美術教育学会学術研究大会三重大会（2018 年 8 月）にて発表し、その研究報告をまとめ学会誌に投稿し、日本美術教育学会学会誌に掲載された。

また、この期間中に申請者が現在在学しているレスリー大学（アメリカ合衆国マサチューセッツ州）の博士課程のコースワークを終了（2018 年 5 月）し、パイロット研究（試験的研究）を行い博士論文研究へ繋げていくことができた。同年 7 月に博士論文研究のテーマ（タイトル：”*Tanden* Art-Making as Contemplative Practice”）と研究方法を提案し、博士論文審査委員会に認められた。それを受け、博士論文提出志願者として研究を進めることが認められた。

そして、9 月中旬よりアメリカに留学先を移し、ペンシルベニア州立大学ハリスバーグ校にて研究を継続した。9 月以後の研究活動は主に博士論文研究の調査実施・データ収集・分析を行うことであった。加えて、文献資料の収集とペンシルベニア州立大学の指導教員でもある Elizabeth Tisdell 教授の授業を受講させていただきながら、教育学（特に成人教育）の分野での ABR の実践と研究について、また教育分野におけるマインドフルネスの実践と研究について学ぶ機会を得た。Tisdell 教授からは、マインドフルネス研究に関する多くの文献を紹介していただいた。加えて、2019 年 2 月 3 月にペンシルベニア州立大学の付属病院(Penn State Health Milton S. Hershey Medical Center)で開催された MBSR(Mindfulness-based Stress Reduction)というマインドフルネスプログラムに参加し、マインドフルネスの医療現場での実践と効果について申請者自身も体験的に学び、また指導者の指導方法や他の参加者の方からの意見も伺うことができた。本プログラムは、アメリカにおいてマイン

ドフルネスが普及するきっかけを作った Kabat-Zinn が考案したプログラムであり、2000 年以後、この MBSR を使った数多くの調査研究が行われている。

それ以外に、2018 年 9 月には、スェーデンで開催された学会にて発表を行い、円空の仏像の意義について日本哲学を基に考察した。本発表については、学会が発行するジャーナルがないため、論文として投稿できる機会を探っている。2019 年 4 月に開催されたシンポジウム"Arts in Health 2019"に参加し、実際の医療現場での芸術活動実践とその効果についても学ぶ機会を持った。この時の学びを基に、2019 年 11 月に行われる臨床美術学会にて発表を行う予定である（タイトル :「医療現場における芸術についての一考察」副題「アメリカ医療現場で実践されている芸術活動を一例にして」)。

博士論文研究については、2019 年 1 月に 1 人目の被験者の実験調査をし、進行具合とビデオ編集を指導教員にも確認してもらいながら、4 回のセッションを 2 月に終わらせた。その後（2 月以後）2 人目の被験者の実験調査を開始し、同時に新たな参加者を募りながら、随時実験調査を開始していった。年齢や性別なども考慮にいれたため対象者を探すことが予想以上に困難であったこと、また各参加者もそれぞれの仕事と生活があるため、時間調整が困難な時もあり、4 回のセッションに 2 か月以上かけることもあったが、5 人の参加者を 7 月までに終えることができた。実験調査を実施する一方で、インタビューのディクテーション、写真撮影とビデオ編集、それらのデータのまとめを行い、8 月までには各被験者にもデータサマリーの内容を確認してもらうことができた。

（3）研究成果

博士論文研究については、現在も執筆中である。それ以外に、留学期間中に行った研究発表、論文執筆、学会参加を以下に記す。

＜研究発表＞

2018 年 8 月 11 日

日本美術教育学会第 67 回日本美術教育学会学術大会三重大会（開催場所 : 三重総合文化センター）にて「アートベース・リサーチの展開としてのアートベースによる自己探求について」というタイトルで発表（単独）

2018 年 9 月 29 日

The 19th Biennial Conference for the International Society for Religion, Literature and Culture（場所：University and Stockholm School of Theology, Uppsala, Sweden）にて、"Enku's truth: the art of a Japanese Buddhist monk"というタイトルで発表（単独）。

＜発表報告＞

『美術教育 No. 303』（2019 年 3 月 31 日発行)）にて「アートベース・リサーチの展開としてのア

ートベースによる自己探求について」を執筆

＜その他＞
Saint Paul University; School of Counseling, Psychotherapy and Spirituality; The society for Pastoral Counseling Research; Christian Family Studies and Capital Choice Counseling Group が主催する本の出版に掲載するための論文を執筆（共著）。タイトルは、“Communicating with your inner tree: Art making through Tree Breathing as a contemplative practice.” 出版は 2019 年春ごろと予定されていたが、担当者が辞退され、現在は出版予定日が未定であるという報告をいただいている。

以上